

I K G の 旅館経営再生塾

第四回

思いがけない
アウトソーシング術
への発想

(執筆 飯島賢二)

アウトソーシング(外注化)によるコストの低減化は、大きな効果を生じることが多い。特に、繁忙期がはつきりしている業種の場合、固定費の変動費化が図られ、全体の経費削減が期待できる。旅館業は他業種に比べ、以前から外注化に慣れていると言ってもいい。清掃などのメンテナンス、浴衣、寝具などのリネンサプライ、ナイトオーダーや警備関係、旅館によっては売店、軽飲食コーナー等の付帯施設、契約の内容は種々あるが、アウトソーシングといえるものである。

しかしこのシリーズで提案するアウトソーシングは、従来型のものではなく、思いがけないサービス、商品のアウトソーシングである。詳細は、紙面の都合上、今後、何回かに分けて述べさせて頂くつもりである。

旅館業というビジネスを、今までの固定概念に捉われず、その資源、環境、可能な限りの発揮できる機能を主体に考えれば、新たな業態としてのチャンスが見えてくるはずである。この発想の延長線上でアウトソーシングを考えるとすれば、まさか、思いがけない外注化も検討する余地は十分にあるはずである。旅館経営も、いつまでも旧態依然とした概念に縛られている時ではない。新たなビジネスの可能性が見えるなら、そこに向けてチャレンジすること、必然かもしれない。